学校だより

令和6年1月31日

２月号

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yabe/

横浜市立矢部小学校

校長　　山口　恭史

GIGAスクール構想を見つめなおすと

副校長　　和田　晋治

令和６年１月１日に能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の一刻も早い復興をお祈りいたします。

GIGAスクール構想が2019年に開始され４年目になりました。授業参観等でも子どもたちがタブレット端末を慣れた様子で使いこなしている姿を目にしたことがある保護者の方も多いのではないでしょうか。「Global and Innovation Gateway for All」（全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉）社会環境の変化が激しくなると予想されるこれからの時代を生きる子どもたちの未来を見据えた文部科学省の取り組みです。学校もICT支援員が配置され、代表職員がICTコーディネーターとして研修を行っています。

運転をされる方はカーナビを使うことがあると思います。目的地を入れるとすぐさま渋滞を考慮した最適ルートを割り出し案内に従って進めば到着です。地図の時には、何度か開いて確認して目的地に向かいました。便利になった一方で気付いたことがあります。新しく走った道は頭の中にある地図とつながり、アップデートされていったのですが、カーナビを使って走った道はなかなかアップデートされていきません。地図を広域的に見ることで以前通った頭の中のマップと関連されたのでしょう。カーナビでは必要な情報に特化して示されるため、広域的に関連付けることは難しいのかなと思います。

最近互いの特徴を上手に生かせるよう走った後に地図を開き、アップデートしています。

ICTを活用した授業はまず操作に慣れるために全員が一斉にタブレットを使い授業を行うことが多かったのですが、今後は例えば調べ学習の情報収集をネットでするのか、図書を利用するのか。算数の図形学習は画面上かノートに描くか等、必要に応じて個々で判断しツールの一つとして上手に使いこなしていく力も求められていきます。気になる課題がいくつかあることも事実です。児童にとって依存性や目の負担はどの程度なのか。テストが終わるとすぐにタブレットを取りに行く児童は、テストの見直しをしているのか。授業時間内に関係のない言葉を検索したり別のサイトに接続したりしている児童もいます。課題に向き合いつつ、GIGAスクール構想の目的である「ICTを効果的に活用しつつ、子どもたちが自らの学びを『自分事』として捉え、自発的に他者と関わりながら学びを深めていくことができる」ことを目指し指導・支援を進めていきます。